



処理の流れを分岐する

基本的に、プログラムはソースコードに記述された命令を最初から順番に 実行していきます。しかし、それだけでは複雑な処理は実現できません。

複雑なプログラムでは、条件に応じて異なる処理を行ったり、条件の続く 間は同じ処理を繰り返したりというように、プログラムの処理の流れを本来 の順番から変更する必要があります。このような処理の分岐を指定するに は、制御文を利用します。

制御文の中でよく利用されるのが、4章の P.102 でも紹介した if 文です。 これは「もし~なら、~を実行する」という構文を構成するもので、条件式 が成立する場合の処理を指定します。また、条件式が成立しないときの処理 を指定するには、if 文に加えて else 文を使います。

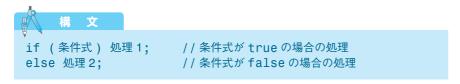
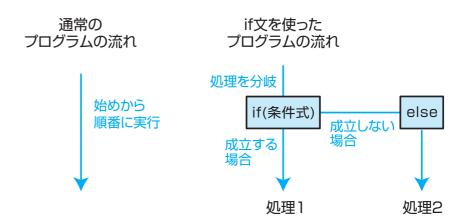


図 5-1 は、通常のプログラムと if 文を使ったプログラムの処理を比較した図です。if 文を使うと、条件が成立する場合(true)と成立しない場合(false)で処理を分岐させることができます。

▼図 5-1 if 文による分岐の流れ



たとえば、J スト 5-1 では「変数 a の値(①)が 1 の場合は変数 b に 5 を代入し(②)、それ以外の場合は変数 b に 10 を代入する(③)」という処理をします。

▼リスト 5-1 文の使用例

```
01: <html>
   02: <head>
   03: <title>List5-1</title>
   04: </head>
  05:
       <body>
   06:
   07:
       <script type="text/javascript">
   08:
       <! - -
   09:
   10: var a = 2;
                             //1
11:
   12: if (a == 1) b = 5;
                             1/2
   13: else b = 10;
   14:
   15: document.write("bの値は"+ b);
   16:
                                                      次へ入
```

5

制御文

116